



森林の流域管理システム推進発表大会

多岐にわたる活動成果を発表

九州各県の森林・林業関係者等340人が参加

10月22・23日の両日、九州森林管理局大会議室において「平成25年度森林の流域管理システム推進発表大会」を開催。九州各県の森林・林業関係者や九州の各県で森林・林業を学ぶ高校生、当局・署の職員など、両日で延べ約340人が参加しました。

発表は、それぞれの地域や職場、学校などで取り組んでいる、森林・林業再生に伴う取組、流域林業の活性化や林業技術の向上、環境保護活動、森林環境教育、災害復旧・防災活動さらにシカ被害対策など多岐にわたる23課題（一般の部16課題、高校の部7課題）の発表があり、審査委員会にて評価が高かった、一般の部5課題と高校生の部3課題が表彰されました。（2面・3面に関連記事）

一般の部16課題・高校生の部7課題を発表二局大会議室

この発表大会は、九州林政連協協議会が主催し、産学官の森林・林業関係者が日頃取り組んでいる活動の成果を発表し、技術の交流や情報交換を行い、流域の森林・林業の活性化を図る目的で開いているもので、今回で19回目を迎えました。

はじめに、同協議会会長の川端省三九州森林管理局長が「人工林を中心とした森林資源が成熟している中、九州地域では、既に本格的な主伐期に入っており、これまで進めてきた間伐を更に進めつつ、主伐から再造林という循環型林業と持続的林業経営の実現が大きな課題となっています。今こそ川上から川下に至る関係者の力を一致結束し九州の森林・林業再生に向けた様々な取組が必要であります。また、発表内容につきましては、低コスト林業・集約化、地域と連携した森林保全活動の取組さらに災害復旧や防災活動の取組など、多岐にわたる課題が用意されており、九州の課題を的確に捉えたテーマの研究成果、取組が大いに期待されるところであります。本日、お集まりになった皆様の相互交流が一層盛んになって森林・林業の

再生に向けた取り組みに弾みがつくよう期待します。」とあいさつした後、1日目の発表、高校生の部7課題・一般の部10課題の発表を行いました。

二日目は一般の部6課題の発表があり2日間にわたる発表が終了しました。その後、鹿児島大学農学部生物環境学科の寺岡行雄教授による「伐採・造林の一貫作業システムによる低コスト造林と未利用材の搬出によるバイオマス燃料への利活用について」と題して特別講演を行いました。

最後に審査委員長の（独）森林総合研究所九州支所の森貞和仁所長から講評があった後、九州林政連協協議会会長賞（最優秀賞1課題、優秀賞4課題）と九州森林管理局長賞（最優秀賞1校、優秀賞2校）に表彰状が授与され2日間の発表大会が終了しました。



特別講演を行う寺岡教授

平成25年度森林の流域管理システム推進発表大会の各賞の入賞課題と発表者は次のとおりです。

23課題の中から特に高い評価のあった一般5課題と高校生3課題を表彰

九州林政連絡協議会会長賞

最優秀賞

◇鹿児島県フォレスト等活動推進連絡協議会の民国連携活動について

鹿児島県森林技術総合センター
外山裕二
鹿児島県大隅地域振興局
山之口学
鹿児島森林管理署
築川伸一



最優秀賞受賞の外山氏、山之口氏、築川氏

優秀賞

◇宮崎県北地域における森林バイオマス活用に係る収集・運搬実証調査報告

延岡市役所農林畜産課
斧 伸春
宮崎北部森林管理署
後藤彰彦



優秀賞受賞の延岡市役所斧氏と宮崎北部森林管理署後藤氏

◇地域材による木造庁舎の建設と地域の製材関係者の思いを大切に

熊本県天草地域振興局林務課
武田信孝
◇シカに負けない低コストなスギ大苗造林方法確立への取組

大分森林管理署
松井郁弥
堀田信広
佐藤太亮



優秀賞受賞の熊本県天草地域振興局の武田氏



優秀賞受賞の大分森林管理署松井氏、堀田氏、佐藤氏

◇今後の低コスト再造林への提案

森林技術・支援センター
釜 稔
田中優哉



優秀賞受賞の森林・技術センター釜氏、田中氏

高等学校の部九州森林管理局長賞

最優秀賞

◇虹の松原を守ろう！
◇松葉の有効利用を通して松原の保全を考える

佐賀県立唐津南高等学校
中山徹輝
坂本大輔
中山幹規
米倉大暉
谷丸勝輝

黒岩和也



最優秀賞II佐賀県立唐津南高等学校

優秀賞

◇ふるさとの姿を守りたい
◇和紙を用いた伝統文化の研究Pratiis

熊本県立矢部高等学校
村岡 武
松本 亨
吉田真季
◇熊本の森を守ろう2013
◇魅力ある森づくりを目指して

熊本県立八代農業高等学校泉分校
野田愛風
大村祐輝
隈部 翔
田中晴也

優秀賞 熊本県立八代農業高等学校
学校泉分校

(担当 技術普及課)



優秀賞 熊本県立矢部高等学校



屋久島森林管理署

宮之浦森林事務所

首席森林官 油谷 浩一

今から約1400万年前に誕生したといわれている屋久島は、九州本島最南端佐多岬の南方60キロの黒潮洋上に浮かぶ日本で5番目に大きな丸い形をした島です。

東隣の細長い平坦な種子島とは対照的で海岸からいきなり急

屋久島第2の高峰 「永田岳」1886m

峻にそそり立つ山岳の島は、豊かな大自然の魅力を十分に満喫させてくれます。

数多くあるこの島の山で、今紹介するのは、屋久島第2の高峰である「永田岳」です。

島のほぼ中央、宮之浦岳の北西側に位置する永田岳は、標高1886mで、北側に続く障子岳1549mまでの約3kmに及ぶ障子尾根は、屋久島で最も大

きな崖壁帯で、西流する永田川の源流となっています。

山頂は花崗岩がむき出しで、北斜面は切り立っており、岩のわずかな割れ目には、イッソクキンカ、シヤクナンガンピ、ヤクシマホツツジなどの高山植物が見られます。また、近くには屋久島の岩場として有名なローソク岩があります。この岩は、高度差170mの平たい滑らかな岩で、その名の通りローソクを突っ立てたような形をしており、頂上はローソクの炎を思わせる6m程度の露岩がのっぴかっています。過去に何人も、この岩に登攀した人がいます。永田岳への登山ルートは2コースありますが、一般的なルートは淀川(よごご)登山口からのコー

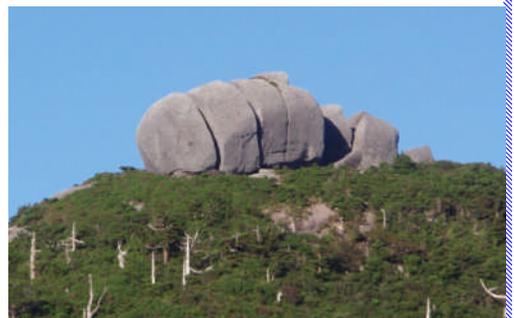


ヤクシマシクナゲと後方ににそびえる「永田岳」



屋久島の岩場として有名な「ローソク岩」

な岩で、その名の通りローソクを突っ立てたような形をしており、頂上はローソクの炎を思わせる6m程度の露岩がのっぴかっています。過去に何人も、この岩に登攀した人がいます。永田岳への登山ルートは2コースありますが、一般的なルートは淀川(よごご)登山口からのコー



包丁で切ったような高盤岳トーフ岩

「緑の雇用集合研修」を実施

【熊本南部森林管理署】国有林のフィールドを活用した熊本県林業従事者育成基金による緑



現場で指導を受ける研修生＝熊本南部

の雇用生10人を対象に緑の雇用現場技能集合研修が行われました。研修では、保育間伐の請負事業現場において、オペレーターによる低コストで崩れにくい森林作業道の安全な開設と維持修繕作業の指導を受けました。その後、研修生は、重機を操作しながら地山の掘り込み方法や路帯、路肩部分の転圧などの技術について真剣に学んでいました。

五ヶ瀬町内小学校へ森林教室

【宮崎北部森林管理署】五ヶ瀬町内4小学校からの依頼で5年生27人を対象に、森林教室を行いました。最初に森林の現状を学習後、五ヶ瀬スキー場から



自然観察へ参加した児童ら＝宮崎北部

向坂山周辺の自然観察と植物の生態について学びました。シカと森林のカードでは、4班に分かれてゲームを行いシカが増えすぎて、シカが食べない植物だ

けが残った班やシカが増えすぎると大変な被害が発生する事を学びました。自然観察では、講師の説明を熱心に聞き、メモを取り質問をする児童もいました。

分収造林地で森林教室開催

【北薩森林管理署】伊佐市立羽月西小学校3、6年生と羽月小学校スポーツ少年団24人を対象に、NPO「水と地球」と協同で森林の体験活動を行いました。小学校みどりの教科書で、

「地球環境と森林の役割」を学習。その後、スギ板を使った本立て作りに挑戦。慣れない手つきで、鋸をひきながら仕上げた本立てに満足し、下刈り作業で



「森林の役割」などについて学習する児童ら＝北薩



森嶋 昭登さん

屋久島に移住して7年になる。自然と一体となった生活を夢見ること幾星霜であったが、定年を期に夫婦で屋久島に移住した。紅い灯青い灯も嫌いではないが

(笑)、余暇のほとんどはアウトドアで暮らしてきた私にすれば当然のなり行きでもあった。農業の真似事などとして暮らしているが、鳥獣害の被害は深刻だ。全国各地でも似たような被害が拡大し、社会問題(ま)まなっている。

中でも、鹿とサルの被害は耕作地はおろか庭先まで拡大し、山林被害も深刻な様相を呈している。栽培していた自然薯は全滅するし、屋久島においては今や、鹿とサルの被害で耕作をあきらめた人は多い。

一念発起し鳥獣害駆除

山林 国有林においては増え過ぎた鹿の食害で生態系の破壊、土壌流出など深刻な問題になっている。

しかし、駆除に携わる人は圧倒的に少なく、中核となる猟友

会員も高齢化と会員の減少でその機能を發揮できにくくなってきている。自然薯畑を全滅させられたことにより、一念発起し、狩猟免許を取得し、鹿、サル退治に乗り出したのが4年前。この

時から行政も保護一辺倒から適正生息水準にまで調整する政策に変わった。

しかし、時、既に遅し・・・の感もある。猟友会員の減少と高齢化により捕獲が遅々として進まないのだ。

日本人の「優しい心」は野生動物への殺生を遠ざける。狩猟としての猟期に猟を行うのさえ批判の目があるのに、鳥獣害駆除での捕獲、殺生には猟友会員でさえ二の足を踏む人も多い。一説によれば鹿の適正生息頭数は1平方キロあたり2〜3頭

高密度生息の西部地区においては鹿の食圧により、山の表土は剥き出しになっており、雑草も生えない。希少な植物の全滅どころか、植物生態系への影響も心配されている。

(鹿児島県屋久島町在住)

平成25年度国有林モニタ―会議を開催 綾の照葉樹林を視察

10月26日、平成25年度国有林モニタ―会議を宮崎県綾町で開き、19人のモニタ―の皆さんにご参加頂きました。

モニタ―会議は現地視察・意見交換会を通じて、モニタ―の皆さんに国有林の取り組みをご理解いただくとともに、より身近な存在として認識していただくことを目的に平成16年度より毎年、開いています。

その保護・復元活動の取り組みについて、ご理解いただくこととなりました。

午前中は綾の照葉樹林文化館において、宮崎森林管理署の上別府悟総括森林整備官より宮崎森林管理署の概要説明、濱田辰広地域林政調整官より人工林、二次林を照葉樹林に復元する「綾プロジェクト」の概要などの説明を行いました。

今年度はモニタ―の方々に対し事前に実施したアンケート調査の結果を踏まえ、モニタ―会議を宮崎森林管理署管内にある国内最大規模の原生的な照葉樹林が残る綾の照葉樹林で実施し、

午後からは「森林セラピー川中自然公園」まで移動し、2班に分かれて、プロジェクトで間伐したスギの人工林、イチイガシなどで構成される照葉樹林、森林鉄道の枕木を生産していた旧営林署製材所跡の現地視察を行いました。

これまで綾の照葉樹林を訪れたことがないモニタ―の方は、イチイガシの巨木に感心したり、製材所跡に関しての説明を興味深げに聞き入っていました。

現地視察の後には、照葉樹林文化館まで戻り、綾の照葉大吊橋前で記念撮影を行った後、会館にて全体を通しての質疑応答及び意見交換会を行いました。

モニタ―会議へ参加された皆さん＝綾町



林に復元する目的は一体なんなのか」「間伐によって、下草を生やすことで人工林の保水能力は高められるのか」「間伐材にはどのような利用方法があるのか」「保護林制度と保安林制度の違いはなんなのか」など、プロジェクトに関係する事項の他、質問者自らが取り組む動植物の保護活動に関する国有林への要望も出されました。

参加者から頂いた、貴重な意見や感想は、今後の国有林野の管理経営に活かしていくこととしています。

（担当）企画調整課

熊本ブロック有志協議会を開催

【熊本森林管理署】10月29日、KKRホテル熊本において、「平成25年度国有林野等所在市町村長有志協議会」を開きました。国有林野などが所在する29市町村から町村長はじめ林務担当者、来賓には熊本県農林水産部岡部清志森林局長、九州森林管理局から川端省三局長と吉本昌朗企画調整課長が出席。川端局長からはこれからの森林・林業のあり方や自然災害への対応などについて挨拶があり、吉本課長からは今年度の取り組み事項などの説明。熊本県岡部森林局長は挨拶の後、県の森林・林業施策に係る情報提供などがありました。意見交換後、欠員と市内の眺めが美しい。



熊本市内で開催された有志協議会＝熊本



そうだと愛宕さんに行こう

とある休日、分収育林が売れたのでお稲荷さんにお礼に。当然、境内の紅葉八幡宮にもお参り。さて時間もあるし、「そうだ愛宕さんに行こう」。

まず、藤崎駅前の猿田彦さんへ寄って、室見駅前のうまいそは屋で軽くざるを一枚。補給を終え、十分ほのかかる長い階段を登り愛宕さんへ到着。ここは署で安全祈願をしている神社で、

のおり神功皇后がお参りに来られたというから実に古い。さて、忘れてならないのが英彦山である。ここは、羽黒山、大峰山とともに日本三大修験山とされ、最盛期には大名に匹敵

する兵力を保持していたと言われている。この他にも、背振山、宝満山などが修験の山としてあったが、戦国時代末期までには衰退したようである。そう言えば小石原の行者杉も、英彦山に修行に入る行者が記念に植栽したものが起源とのこと。

今紹介した山は、総て国有林である。福岡署では由緒ある山を守りながら、安全で活力ある森林を造るため、全員が日々汗を流している。

（福岡森林管理署長 森 隆繁）

「救急法講習会」を開催 心臓マッサージとAEDの使用法を学ぶ

健康週間中の行事として、10月3日「救急法講習会」を開きました。当日は、熊本西消防署及び同署池田庁舎から7人の講師を招き、局会議室において局職員約70人が参加して行われました。

今回は主に、心臓マッサージ及びAEDの使用方法について実習を交えて学びました。

講師からは、救急の場面に遭遇した場合は①周囲の人々への協力の呼びかけ②意識の有無の確認③呼吸の有無の確認④救急車の手配要請⑤更にAEDの手配要請⑥心臓マッサージの実行となるなど基本的な注意があり



救急法講習会へ参加する職員＝大会議室

ました。

実習では3人1組となり、救急車を手配する者・AEDを持参して来る者・それを指示し心臓マッサージを行う者などの役割を交代しながら行いました。頭の中では理解できてもいざ行動になると難しく、参加者は真剣な表情で受講していました。このような場面には実際に遭遇しないことが一番ですが、日頃から万が一に備えた心構えが大事であることを実感した講習会でした。

(担当)総務課企画官
(安全衛生担当)



講師から実技の指導を受ける職員

緑のオーナー友の会交流会を開催

【熊本南部森林管理署】当署管内の「千年の森林広場」において、緑のオーナー友の会主催による「平成25年度友の会交流会」が開かれました。当日は、会員や家族、当署職員など約40人が参加。友の会会長あいさつのもと、石神智生署長のあいさつと分収育林の現状説明を行い、九州森林管理局長メッセージを読み上げました。引き続き、昼食を挟んで参加した子供を対象に竹鉄砲作りなどを行い、秋空の下、オーナー友の会家族ぐるみで自然を満喫した一日となりました。



交流会へ参加したオーナーの皆さん＝熊本南部

第53回治山研究発表会で受賞

【鹿児島森林管理署】10月2日～3日東京都渋谷区「国立オリンピック記念青少年総合センター」において、治山研究会主催による第53回研究会発表会が開かれ、各森林管理局や各都道府県から治山担当者が4セクションに分かれ43課題を発表しました。当署から治山グループの西山太英技官・松田遥技官が参加し「桜島上流荒廃地における課題と新たな試み」と題し、平成13年度から実施してきた航空実播工の成果と、未だ活発に活動している桜島の上流域での荒廃安定に向けた新たな取り組みについて発表し、見事「最優秀賞」を受賞しました。



第53回研究発表会の様子＝鹿児島

自然の体験に感動



森林教室へ参加した児童ら＝都城支署

【都城支署】都城市立石山小学校から「森林教室」の依頼があり、5年生15人に森林教室を行いました。「樹木調べ」では、葉の検索表で形や特徴を見比べたり、「丸太切り」体験では、丸太を切ったあと年輪を数えたり匂いを嗅いで喜び、持ち帰っていました。「測樹体験」では、二等辺三角定規を使い立木の高さを測る体験に感動していました。この森林教室は、児童の森林や自然に関する体験を通じた学習の課題作りを目的にしており、当支署としてもこの活動に積極的に協力を行い森林の役割・自然との関わりについて知識や理解を深めてもらえるよう取り組んでいくこととしています。

環境ボランティア活動を実施

【屋久島森林生態系保全センター】九州各地に勤務する株式会社伊藤園の職員10人が鍋山国有林で環境ボランティア活動を行いました。当箇所は屋久島・種子島のみに自生するヤクタネゴヨウが台風やマツノサイセンチュウの被害などのため減少し絶滅危惧種となっていることから、その回復を図るために設定した箇所。今回、設定から9年が経過し、ヤクタネゴヨウの枝が成長したため、ヤクシカからの食害を防ぐと設けていたサブリガードの保護柵の除去を行いました。参加者は撤去したサブリガードなどの資材を額に汗



ボランティア活動に参加されたみなさん！屋久島保全CCC

をしながら林道脇まで運び出しました。参加者からは、きつい作業だけど、やった実感がわきましたなどの意見がありました。

北薩地域森林・林業推進研修会開催

【北薩森林管理署】鹿児島県北薩振興局、関係市町や当署職員20人が参加し北薩地域森林・林業推進研修会を開きました。研修会は、国有林野事業が一般会計に移行したことに伴い、民有林と国有林が連携し地域の森林・林業再生を図る目的で定期



マンリヨウとセンリヨウは似ていますが、区別は果実の付き方で簡単にでき、葉の下に果実がつくのがマンリヨウで、センリヨウは果実を葉の上につけます。

一般的に、1両・ツルコウジ、10両・ヤブコウジ、百両・カラタチバナでセンリヨウ、マンリヨウと金額の大きさを示され、センリヨウ(センリヨウ科)以外はヤブコウジ科で、すべて葉の下に果実をつけます。

名前が「めでたい」ことからお正月の縁起物として生け花に利用されています。

的に開いており、今回は、薩摩川内市の中越パルプ工業(株)から事業概要、製紙用チップの需要動向、木質バイオマス発電

における木材利用の計画などについて説明を受けました。特に、木質バイオマス発電は地域林業の再生に大きな影響があることから多くの質問や意見が出ました。また、地域林業の現状と課題について意見交換を行い、次回は、伐採現場とする事を確認し散会しました。



中越パルプを視察する一行＝北薩



庭にセンリヨウとマンリヨウを、さらにアリドウシを植えて「センリヨウ、マンリヨウ、アリドウシ」としゃれるのも・・・真偽のほどは？

葉の縁には曲線の鋸歯があり肥厚して反曲しています。肥厚した部分には、共生細菌が詰まった組織内腺体があります。共生細菌は観察できませんが肥厚した鋸歯は特異で、花がないときの区別点にもなります。改めて観察されると印象に残ります。

葉をすかして観察すると、葉の中の明点や黒点の確認ができます。ルーペがあるとはっきり



と観察できます。



多くの犠牲者を出した東日本大震災が発生した日が3月11日、プロ野球日本シリーズ第7戦で楽天が巨人を破り日本一に輝いた日が11月3日と何らかのつながりを感じる・・・ラジオのリスナーからの便りが流れていた▼2011年流行語大賞の候補にもなった「見せましよう、野球の底力を」とあいさつした嶋基宏捕手、「ともに頑張ろう！東北」を合い言葉に被災者や地元ファンに喜んでもらおうと全員必死だった。応援の力が最高の環境を作り、結果に結びついたと思いますと語っていた▼被災者と日本全国のファンに感動と勇気・元気を与えたと思う▼森の中で、チェーンソーを使いこなし間伐作業をカンガンとこなす「木こり系男子」と言う言葉があった▼最近では「身近なものに木製品を」と呼びかけ間伐などの活動をインターネットなどで情報発信する若い女性グループの「林業女子会」が各地に結成され森林整備や森林資源の需要拡大に一役買っているとの新聞に掲載されていた▼この活動の発信が日本の林業を元気にする一助になればと願う。(み)